検討会 ('63. 11. 11)

報告者：上山

出席者：今西、藤岡、岩田、米山、飯島

I、研究会の経過

準備段階

① 1959. 3. 10、 研究計画の打合せ会 (今西、上山、川喜田、藤岡、和崎)

目標：人類生態学の体系をつくること。

(成果は古今書院「生態学体系」第5巻として発表予定)

メンバー：所内 — 今西、藤岡、牧、加藤、上山

所外 — 梅棹、川喜田、岩田、石川、和崎、

飯島、谷、

構想：第1部 community studies

1a 人類社会分類学 --- 現存社会

1b 人類社会系統学 --- 「史的社会」

第2部

11a 個人

11b 社会人

(第2部では、人間の適応としての culture,

宗教の意味, Freud学説の検討を行う)

② 1959. 3. 17 打合せ (今西、上山、藤岡、牧、梅棹、川喜田、

岩田、石川、飯島、谷、和崎)

(第1部は sociology のあつかってきた面を、第2部は Psychology

のあつかってきた面を、ecology の立場からあつかう。)

今西：第1部の community study における community は、ecology

のあつかう主体環境系の 主体 である。

主体 = 自活単位 (Oikia?) 生きもの

サルのムレから国家まで。

第2部では、主体の構成要素である人間の内部構造が問題。

(ego と superego と skill と social norm のつながり)

Kyoto University

culture は 主体（生キモノ）の道具，
孤立させずに 生活単位 にあわせて見つゆく。

③ '59．4．14　　打合せ　（今西．上山，藤岡．牧．
川喜田．伊谷．岩田．谷．飯島．志水）

第1部　Community 研究
　　分類
　　分布
　　系統
第2部　社会のなかの個人 ── culture and personality

今西；階層のない社会（王が羊をかったりする）から
　　階層のある社会（王が羊をかったりしなくなる）へ，
　　狩猟採集から定着農耕への移行が問題である。

④ '59．4．28　　~~i) 今西：基礎理論の提案~~ 作業仮説　（今西．上山，藤岡，
i) 今西；第1次作業仮説提案　梅棹．岩田．伊谷．飯島．志水）

単層

A1「ムレ」の崩壊
incest tabu integration
(neighborhood connection)
~~hunting line~~

B1「家族」の成立
男一女
Spause integration
(intrafamily connection)

A2「バンド」の成立
hunting integration
(interfamily connection)

B2「家族制」の成立
親父一息子
budding integration

A3「クラン」ー「トライブ」の成立

Kyoto University

○"Hunting Line" について
1. 人間以外の Primates は Tropical と Subtropical 以外には
はすまない。
2. 人間以外の Primates は food-gatherer であっても，
hunter ではない。
3. Hunting は musculine dominancy の原則によって，
♂がやる。── 食物獲得上の分業 ── ♂を中心として
♂と♀が一つの生活単位をつくる（spouse integration）

○ One Layered Community → Two Layered Community
（Plant Succesion よりの転用）
Stuward：Irrigation Civilization
Withforsel

ii) 藤岡；Siriono
iii) 谷　；Paiute
）狩猟・採集

⑤ '59．5．12　（今西．上山．藤岡．牧．谷
梅棹．川喜田．岩田．石川．
飯島．~~伊谷~~ しみう．ワガキ）

i) 谷；トナカイ・ツングース　~~遊牧~~ トナカイ遊牧民
ii) 岩田；Iban（ボルネオ）　焼畑農民

○"Life Form"

⑥ '59．5．26　（今西．上山．藤岡．谷．
川喜田．岩田．石川．伊谷．飯島
しみう．ワガキ）

重層

i) Steward：Theory of Culture Change，1955
St. & others：Irrigation Civilizations，1955

○ Life Form と Layer との関係
One Layered Community でも，複数の Life Form が
混在していてよい。　生産に従属せず，Surplus よって
生きてゆく階層がなければ One Layered と。

○ incipient agriculture から State になるとき、なぜ theocratic stage を通るか、いくつかの communties を一つの community に統合する作用を宗教がはたす。そのばあいの宗教は、各 communities の宗教より高次のものでなければならぬ。

・殷の天帝、

・日本の天照大神

○ 人間社会における religious な面と political な面の二本立ての原則。二つは、pheno-type としては異っていても、geno-type としては同じである。

⑦ '59, 6.9. (今西、上山、藤岡、谷、岩田、石川、川村、飯島、ワザキ)

i) 石川：エンゲルス：国家の起源

○今西：国家ができて安全が保障されて、はじめて communities 間の商業ができるのではないか。

⑧ '59, 6.23. (今西、上山、藤岡、谷、川村、ウメサオ、岩田、ジュウ、ワザキ)

i) 岩田：西アフリカの国家（北からの圧）

ii) 藤岡：東南アジアの国家（北と西からの圧）

○今西：重層化の形式（重層化は地域の拡大を前提とする）

community の発展 → 地域の拡大 →

他の community とのふれあい → 上下関係の成立

○王の成立

clan 原理をこえる価値観の成立が必要（宗教）

人民にたいする王の神聖化による正当化

⑨ '59, 7.6. 第1部の総括 (今西、上山、藤岡、梅棹、川村、岩田、飯島、ワザキ)

今西：~~第2次作業~~ ~~仮説提案~~

1) One Layered Community

単層 — 同質 / ~~異質~~

2) many Layered Community

重層 — ~~同質~~ / 異質

* 異質…city をふくむ community

* 重層…キソ生産に surplus ができなければ重層にならぬ。

a. Feudalism ヨーロッパ（分散的、生産力高し）

b. Beureaucracy アジア（集中的、生産力低し）

~~* 重層…キソ生産~~

3) One Layered heterogenous community

フランス革命以降

Morgan : Ancient Society,

Lowie : Origin of State, 1927

Steward : Irrigation Civilization, 1955

Oppenheimer : The State

Linton : The Study of Man, 1936

Tribe and State

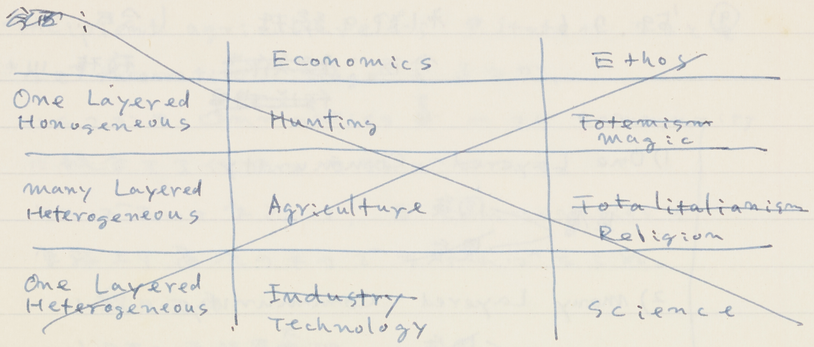
The Tree of Culture, 1955

Cities and State

Kyoto University

~~今西：~~

	Economics	Ethos
One Layered Homogeneous	Hunting	~~Totemism~~ Magic
many Layered Heterogeneous	Agriculture	~~Totalitalianism~~ Religion
One Layered Heterogeneous	~~Industry~~ Technology	Science



夏休み中の中間は後

'59.7.15 （今西、上山、藤岡）

◦ Industrialization を criteria として一本入れる。

同質 ⟶ 異質

前工業 ⟶ 弱工業 ⟶ 強工業

90%はキソ産業　大半が農　農工

↓

'59.8.4 （今西、上山、藤岡、ウメサオ、ワサキ）

人類社会進化概念図、

'59.8.6. （今西）

人類共同体の検索表

人類共同体分類概念図

'59.8.11. コンパ（大和）

今西 ~~提案~~：~~第3次~~ 第2次作業仮説提案

執筆割当

⑩ '59.9.8. （今西、上山、藤岡、川キタ、ウメサオ、カトータニ、シムラ）

i) 藤岡 —— 単層同質共同体

ii) 岩田 —— 単層から重層へ

iii) 川喜田 —— ネパール、チベット

⑪ '59.9.21 （今西、上山、藤岡、川キタ、岩田、飯島、谷）

i) 川キタ

⑫ '59.10.20 （今西、上山、　　）

i) ウメサオ —— 比較家数論

⑬ '59.11.10

i) 川キタ —— 分布論

⑭ '59.11.17

i) 上山 —— マルクスの方法

⑮ '59.12.1

i) 飯島・谷 —— ウィットフォーゲル：水利文明

⑯ '59.12.8

川キタ —— 地図の検討

~~今西："オアシス日学" と "フォレスト日学"~~

~~今西：狩猟採集 から 農耕牧畜へ~~

オアシス	フォレスト	
		寒
		冷
		暖
		熱

⑰ '59. 12. 22

谷：クールボーン：Hudalism in History

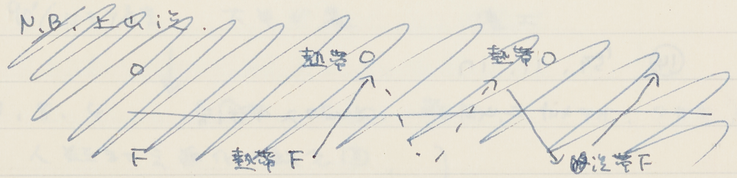
志邨：編成論

乾	湿
セントラル	ペリフェラル
大陸	沿海
統制	慣習
Centralism	Regionalism

12.8 上山
12.22. 今西

F ⟷ O 振動説

~~N.B. 上山説~~

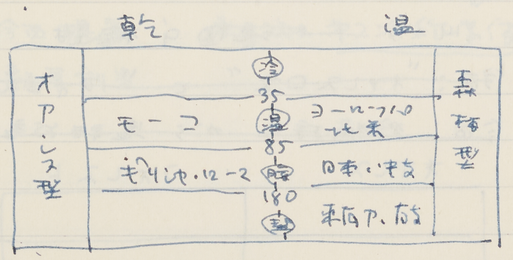


⑱ '60. 1. 19

川モタ：資源論

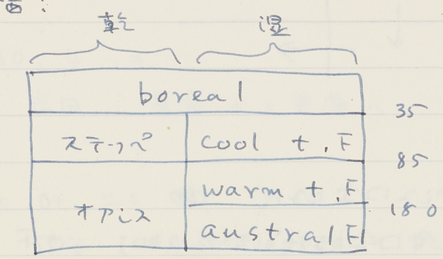
35° ライン決定。

今西、



⑲ '60. 1. 26

今西：



35° … 農業北限界線

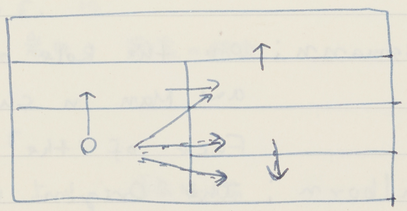
85° … ステップ地帯の成立

(シナ、ローマ、サラセン等の版図)

180° … 森林の方は農業の難易の差

オアシス地帯では潜漑が絶対必要

川モタ：文明の伝播



上山：D家の分類。

a. オアシス口学

b. フォレスト口学

b1. Cool

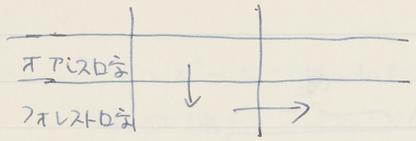
b2. warm

b3. Austral

c. 混合口学 (ロシア、アメリカ、シナ、インド)

Kyoto University

今西：



上山：

1. オアシス口字時代　O
2. 混合口字時代（洪・ローマ部）　O F
3. フォレスト口字時代　F
4. 新混合口字時代（米・ソ）　F O

(20) '60, 2. 2.

志切：編成論

(21) '60, 2. 16.

谷：Wissmann: On the Role of Nature and Man in changing the Face of the Dry Belt.

上山：Coulborn: The Origin of civilized Societies.

(22) '60. 3. 15

谷：環境区分

上山：場の理論

O ... ~~異質~~ 場の異質性　~~求心力~~　~~単位が大~~

F ... ~~同質~~ 場の同質性　~~小単位~~

(23) '60, 3. 29

中尾：アジア、ヒマラヤ社会の農耕文化

(24) '60, 4. 19

岩田：単層から重層へ

(25) '60, 4. 26

伊谷：Anthropoid の社会構造

Monkey — Group

Ape — Family

Man Ape — Band

(26) '60, 5. 10

佐々木：焼畑

(27) '60, 5. 17

岩田：国家の成立

(28) '60. 5. 24

上山：編成論

社会の変化 → 家族の変化 (extended f. → nuclear f.)

Kyoto University

Kyoto University